

ご使用前に必ずお読みください。

取扱説明書

補助ロープ

このたびは、《補助ロープ》をお買い上げいただきありがとうございます。本製品は、移動時の掛け替え用として、胴ベルト型の墜落制止用器具と併用するロープです。

この取扱説明書は「補助ロープ」について説明しております。ご使用前に必ず組合わせる墜落制止用器具（ランヤード・ベルト）の取扱説明書を併せてお読みください。

⚠ 危険・⚠ 警告・⚠ 注意の項目は、事故を未然に防ぐために厳守してください。

この取扱説明書は、いつでも活用できるよう大切に保管してください。

取扱説明書を紛失された場合は、弊社HPにも掲載しておりますので、プリントアウトして保管してください。

HPアドレス： <https://jpn.tajimatool.co.jp>

（HPトップページにある「取扱説明書」のボタンをクリックしてください）

1. 用途

この製品は補助ロープです。
その使用例および用途は右記のとおりです。

使用例	用途
	足場のある高所作業現場で、墜落制止用器具の胴ベルト型に取付け、移動中に障害物があつた際の掛け替え用として使用します。

●使用条件について

本製品（補助ロープ）は、墜落制止用のランヤード※¹ではありません。

- ・必ず、労働安全衛生法第42条の規定に基づく厚生労働大臣が定める規格「墜落制止用器具の規格」を基に製造された墜落制止用器具胴ベルト型と併用してください。
- ・フルハーネス型には使用できません。
- ・身体を保持する作業には使用できません。
- ・補助ロープ※²は移動時の掛け替えのみに使用するものです。
作業をする時は、必ず墜落制止用のランヤードに掛け替え、補助ロープは構造物から外してください。

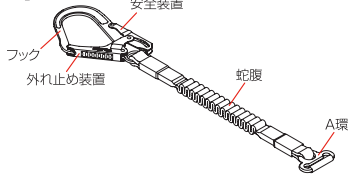
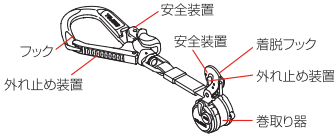
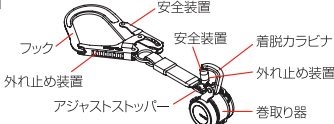
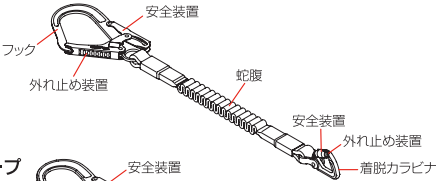
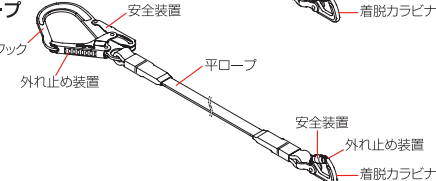
※¹ ランヤードとは、ロープまたはストラップに、フックとショックアブソーバを備え、胴ベルトと取付け設備とを接続する墜落制止用のものをいいます。
胴ベルト型ランヤードは、第一種ショックアブソーバ付きのランヤードです。

※² 補助ロープとは、移動時において、メインとなるランヤードを掛け替え前に移動先の取付け設備に掛けることによって、絶えず作業者と取付け設備が接続された状態を維持するための長さ1.3m以下の短いロープまたはストラップです。

●目次

	ページ		ページ
1.用途	2	4.点検と廃棄の基準	13～15
2.構造、各部名称および使用方法	3～7	5.保管と手入れのしかた	16
3.必ずお守りください （使用上の注意事項）	8～12	6.交換のめやす（耐用期間）	16

2. 構造、各部名称および使用方法

補助ロープ本体	付属品
【A環接続】 蛇腹 	後付フックハンガー  L型D環止め 
【着脱フック】 巻取り (VR) 	後付フックハンガー  L型D環止め A環 
【着脱カラビナ】 巻取り (KR)  蛇腹  平ロープ 	後付フックハンガー  L型D環止め  小径A環 

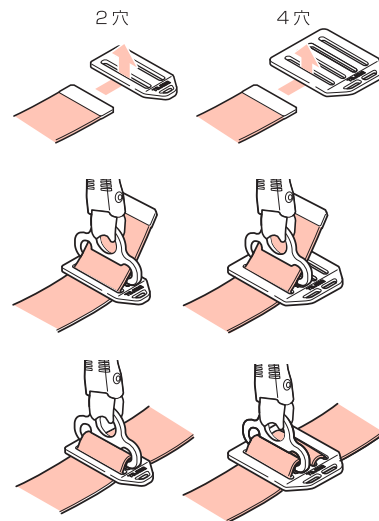
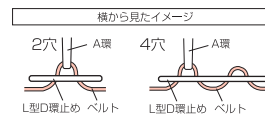
【補助ロープの取付け方法】

①ベルトをL型D環止めの最初の長穴に通します。

②ベルトにランヤードのA環を通します。

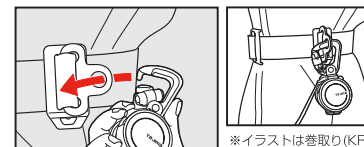
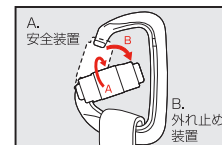
※イラストはA環接続です。
小径A環も同じ通し方です。

③L型D環止めの長穴にベルトを順次図のように通します。



【着脱カラビナの取付け方法】

①A.安全装置を回しロックを解除し、
B.外れ止め装置を押して着脱カラビナを開く。
②開口した着脱カラビナを接続環に取付ける。

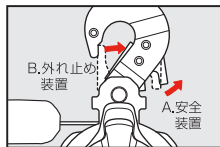


※イラストは巻取り (KR)

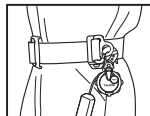
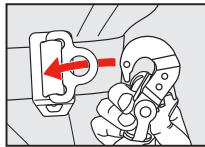
危険 外れ止め装置がしっかりロックされているか、ご確認の上ご使用ください。

【着脱フックの取付け方法】

- ①A.安全装置を引き上げ、
B.外れ止め装置を押して
着脱フックを開口する。



- ②外れ止め装置を押しながら接続環に
取付ける。



※イラストはVR150

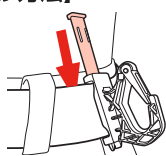
危険

接続環はタジマ墜落制止用具のA環/D環をご使用ください。
それ以外の環類には絶対に取付けしないでください。

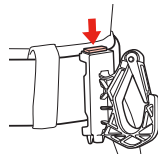
【後付フックハンガーの取付け方法】



- ①本体裏側のロック爪を図
のように閉じながら、差
込みプラグを上方に押し
出す。



- ②取付けたい場所に差込
みプラグをベルトの内
側に差込む。



- ③差込みプラグを元の位置
に最後まで差込み、ロッ
ク爪が抜けないことを確
認する。

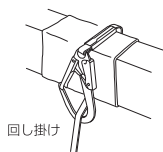
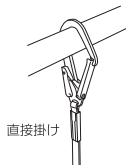
【フックの操作方法】

フックは外れ止め装置と安全装置を同時に
握ってください。開口します。



【フックの使用法】

フックは腰より高い位置の堅固な構造物などに
直接掛けをするか、あるいはランヤードを利用
して回し掛けをしてください。

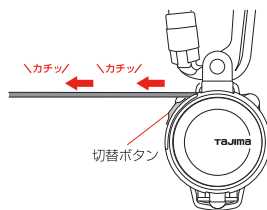


【KR タイプのストラップ長さの調節方法】

補助ロープのKRタイプでは作業シーンに合わせて【オートストップ】、【フリー】、
【アジャストストッパー】の3つの巻取り機構を選択できます。

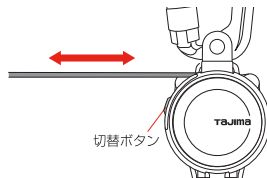
オートストップ ストラップを引出した長さで保持します。

- ①ストラップを好みの長さで引出す。
引いている間『カチッ、カチッ』と音がします。
②ストラップの長さは引出した位置で保持されます。
③切替ボタンを押すとストラップを巻取ります。



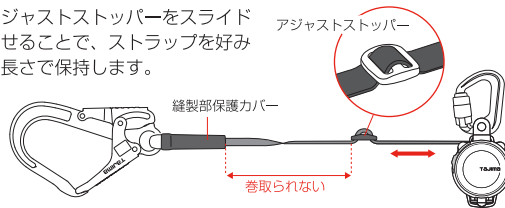
フリー ストラップを常に最短の長さで保持します。

切替ボタンを下に押しながらスライドさせるとボタン
が固定されて【フリー】となり、ストラップを常に巻
取る状態になります。



アジャストストッパー ストラップを常に決まった長さで固定したい時に便利な機能です。

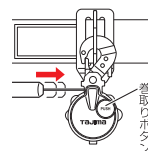
アジャストストッパーをスライド
させることで、ストラップを好み
の長さで保持します。



KRタイプの使い方は
動画でもご覧いただけます



【VR タイプのオートストップ機構】



ストラップを巻取る
時は巻取りボタンを
押してください。

※イラストはVR110

●2丁掛け適合表

- ・本製品（補助ロープ）は、ワークポジショニング（U字つり）作業用ではありません。
- ・「墜落制止用器具の規格」に胴ベルト型は U 字吊りできない構造である事が定められています。
- ・一般のランヤードを 2 本目のランヤードとして使用した場合、フックを反対側の接続環に掛けることができるため、U 字つり使用できる構造になってしまいます。これは規格の禁止事項に抵触することになります。
- ・下記適合表の内容をご確認頂き、正しい組合わせでご使用ください。

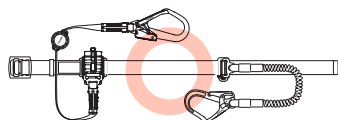
		セカンドランヤード						補助ロープ		
	着脱部	縦型	着脱カラビナ ※小径A環を使用		着脱フック ※A環を使用		A環接続	着脱カラビナ ※小径A環を使用	着脱フック ※A環を使用	
	着脱部	フック	L1 / L2	L8	L4 / L5	L8	L6	L1 / L4	L4	L6
メインランヤード	縦型	L1 L2	○	○	○	○	×	○	○	×
		L8	○	○	×	×	×	○	×	×
	着脱カラビナ ※小径A環を使用	L4 L5	○	×	○	×	×	○	○	×
		L8	○	×	×	×	×	○	×	×
	着脱フック ※A環を使用	L6	×	×	×	×	○	×	×	○

※上記適合表以外の組合わせは2丁掛けに適合していません。

●「墜落制止用器具の規格」に適合する組合わせ例

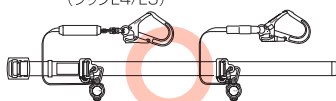
（左側）縦型ランヤード

（右側）A環接続の補助ロープ



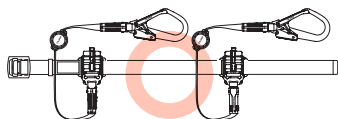
（左側）着脱カラビナのランヤード（フックL4/L5）

（右側）着脱カラビナの補助ロープ



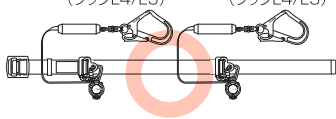
（左側）縦型ランヤード

（右側）縦型ランヤード



（左側）着脱カラビナのランヤード（フックL4/L5）

（右側）着脱カラビナのランヤード（フックL4/L5）



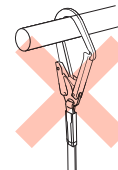
3. 必ずお守りください（使用上の注意事項）



危険 誤った使い方をしますと、墜落などの危険性がありますので、絶対にやめてください。

●補助ロープは堅固な構造物および親綱に取付けてください。

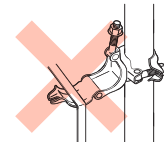
補助ロープは構造物から抜けたり破損したりする危険性がなく、万が一の落下時の衝撃荷重に十分耐える堅固なものを選んで取付けてください。



●補助ロープが鋭い角に触れないようにしてください。

補助ロープが鋭い角に触れる危険性のある所では使用しないでください。

鋭い角のある構造物を避けて補助ロープを掛けるか、または構造物に丈夫な布などの保護材を巻いて養生してからご使用ください。



●ランヤードまたは補助ロープのどちらか一方が構造物と連結しているようにしてください。

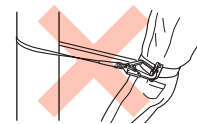
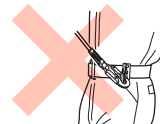
・移動したい所に補助ロープを取付けてから、これまで掛けていたランヤードを外して移動します。ランヤードのフックを掛け替える時は、補助ロープが構造物に掛かっているようにしてください。

・補助ロープは移動時の掛け替え用で、墜落制止用ではありません。補助ロープを掛けた状態で作業は行わないでください。

●接続環（A環/小径A環/D環/U字環）にフックを掛け、ストラップまたはロープに体重をかけた状態で絶対に使用しないでください。



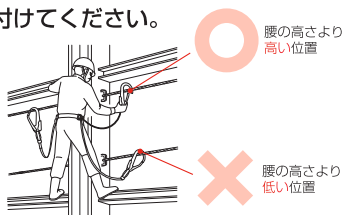
●後付フックハンガーをD環等、強度のある器具の代わりとして使用しないでください。



- 組合わせて使用される製品の取扱説明書もあわせてご覧いただき、正しくお使いください。

●フックは腰の高さより高い位置に取付けてください。

フックを低い位置に取付けた場合、落下距離が長くなり大変危険です。絶対にしないでください。



●フックは正しく掛けてください。

誤った掛け方をすると、フック本体が変形または破断して墜落する危険性があります。フックは折れ曲がったり、外れ止め装置および安全装置に荷重が加わらないように、フックの主軸の方向と墜落時にかかる力の方向が一致するように掛けてご使用ください。

回し掛けは鋭角部を避け、フックに横方向の曲げ荷重が加わらないように、また縫製部保護カバーが屈曲しないように掛けてください。フックが正しく掛かっているか(外れ止め装置が閉じているか、安全装置が構造物との接触で押されていないか等)目視で確認し、あわせて引張って外れないか、確実に連結されているかご確認の上ご使用ください。

	直接掛け	回し掛け	穴掛け（ボルト穴など）
正しい掛け方			
誤った掛け方			



誤った掛け方をすると、外れ止め装置や安全装置がねじれたり部材で押されたりしてフックが取付け部から外れたり、フック本体が変形して墜落するおそれがあります。

- 着脱カラビナを胴ベルトの接続環(A環 / 小径A環 / D環)に正しく掛けてください。

外れ止め装置および安全装置に荷重が加わらないように着脱カラビナの主軸の方向と、墜落時にかかる力の方向が一致するように掛けてご使用ください。着脱カラビナが正しく掛かっているか(外れ止め装置が閉じているか、安全装置が構造物との接触で押されていないか等)目視で確認し、あわせて引張って外れないか、確実に連結されているかご確認の上ご使用ください。



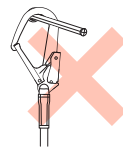
誤った掛け方をすると、外れ止め装置や安全装置がねじれたり部材で押されたりして着脱カラビナが環類から外れたり、カラビナ本体が変形して墜落するおそれがあります。



警告 誤った使い方をしますと、墜落などのおそれがありますので、やめてください。

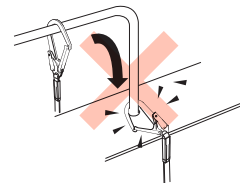
- フックをステップボルトに掛けしないでください。

万が一の落下時にフックが曲がったり、抜けたり、ステップボルトが折損し、重大事故になる危険性がありますので、絶対にしないでください。



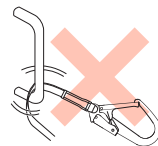
- フックが滑り落ちるような場所にフックを掛けしないでください。

支柱に滑り止めとなる横棒のない枠組み足場の手すりや斜めの構造物など、フックが取付け位置から滑る場所にはフックを掛けしないでください。



- 屈曲としごきが加わる使用はしないでください。

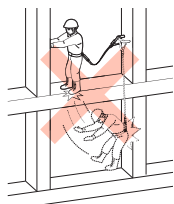
縫製部、縫製部際へ過度の屈曲としごきが繰り返されると、縫製部を保護するカバーが破損し、縫製部の強度低下につながるため絶対にしないでください。



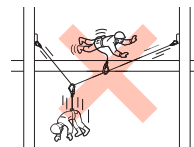
- 2丁掛け仕様の場合、掛け替え時以外の通常使用時は、両方のフックを掛けた状態で作業しないでください。

墜落制止時にショックアブソーバが正常に機能しない場合があります。

- 補助ロープは振り子状態にならない位置に取付けてください。



- 親綱（垂直・水平）の1スパンを利用する作業者は1名としてください。



友引き状態になり、他の作業者も同時に墜落するおそれがあります。

- 補助ロープは-10℃～50℃の範囲で使ってください。

火気または高温部に触れないようにしてください。

使用温度が -10℃～ 50℃以内であっても、水に濡れて凍結すると、フックの外れ止め装置と安全装置等が作動しないおそれがあります。操作する上で異常がないか確認しながらお使いください。

- 溶接の火花、強い酸やアルカリ、油、その他高温高熱の物体や科学薬品類が製品に付かないようにしてください。

- ⚡ 雨の日は感電に注意してください。

- 改造や部品の取外し等の加工は絶対に行わないでください。

- 墜落制止用のランヤードを必ず併用してください。

補助ロープは墜落制止用ではありません。必ず墜落制止用器具 胴ベルト型ランヤードと併用してご使用ください。

- フルハーネス型には取付けないでください。

補助ロープは胴ベルト型の墜落制止用器具と併用するものです。フルハーネス型には墜落制止用器具 フルハーネス型ランヤードを接続してご使用ください。

- 一度でも大きな荷重が加わったものは廃棄してください。

外観上の変形がなくても、一度でも大きな荷重が加わったものは、再び落下すると衝撃荷重が大きくなり、身体に損傷を及ぼすばかりか、万が一の落下を阻止できない危険性があります。一度でも大きな荷重が加わったものは、補助ロープを含む墜落制止用器具全体を廃棄してください。

- 他の用途には使用しないでください。

注意 安全にお使いいただくためにお守りください。

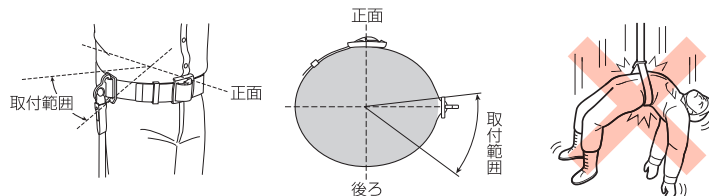
- 補助ロープに体重を預けないでください。

- 丁寧に扱ってください。

補助ロープを引きずりますと、フックに砂などの異物が付着したりロープ部分が摩耗したりします。

- 接続環は、横かななめ後ろのように装着してください。

身体の横か、ななめ後ろに位置するように使用してください。



- 補助ロープを胴ベルト型ランヤード、胴当てベルト、胴ベルトと組合せてご使用になる場合は当社製品を組合せてください。

- 屋外に放置しないでください。

合成繊維製のため紫外線によって強度が劣化します。

4. 点検と廃棄の基準

●一度でも大きな荷重が加わったものは使用せず、廃棄してください。

補助ロープおよび関連器具は消耗品であり、使用しているうちに摩耗などにより性能が低下します。従って点検において 1 項目でも廃棄基準に達しているものは、機能不良や強度不足になりますので新品と取替えてください。

始業点検：使用する人が作業前（装着時）に毎回行ってください。
点検後地上で装着し、異常のないことを確認してください。

定期点検：使用する人もしくは管理者により 1 カ月ごとに行ってください。

異常時点検：作業中に異常を感じたら直ちに作業を中止し、再点検を行ってください。

●補助ロープ点検チェックリスト 日常の点検を励行してください。

廃棄基準に達しているものは新品と取替えてください。
(このチェックリストをコピーして点検時にご使用ください)

○:異常なし X:異常あり

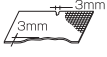
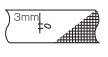
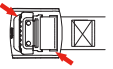
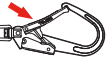
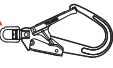
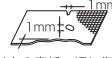
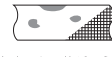
年 月 日

点検項目				廃棄基準	判定
胴ベルト	両 耳	摩耗・擦り切れ	3mm 以上の摩耗・擦り切れのあるもの		
		切り傷	3mm 以上の切り傷のあるもの		
		焼損・溶融	3mm 以上の焼損・溶融しているもの		
	幅の中	摩耗・擦り切れ	3mm 以上の摩耗・擦り切れのあるもの		
		切り傷	3mm 以上の切り傷のあるもの		
		焼損・溶融	3mm 以上の焼損・溶融しているもの		
	全 体	薬品・塗料	3mm 以上付着しているもの		
		切り傷	3mm 以上の切り傷のあるもの		
		焼損・溶融	3mm 以上の焼損・溶融しているもの		
		先端止めの変形	バックルに通らなくなったもの		
		先端止めの脱落	先端止めが脱落してベルトがほつれているもの		
		縫製部	縫糸	1 ヲ所以上切断しているもの	
	バックル	変形	締まり具合が悪いもの		
			リベットのカシメ部にガタ・変形があるもの		
		摩滅・傷	深さ 1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの		
			リベットのカシメ部が 2 分の 1 以上摩滅しているもの		
			ベルトの嘴合部が摩滅しているもの (正しく装着し、腹部に力を入れてベルトがゆるむもの)		
		錆	全体に錆が発生しているもの		
		ばね	折損、脱落しているもの		

補助ロープ	フック	変形	外れ止め装置の開閉操作の悪いもの	
			リベットのカシメ部にガタつきがあるもの	
		摩滅・傷	深さ 1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの	
			リベットのカシメ部が 2 分の 1 以上摩滅しているもの	
		錆	全体に錆が発生しているもの	
		ばね	折損、脱落しているもの	
		より戻し	より戻しの回転部に0.8mm以上の隙間があるもの	
	巻取り器	変形	ストラップの巻き込み、引出しができないもの	
		取付ねじ	巻取り器の取付ねじが脱落しているもの	
		破損・傷	ベルト通し環が破損しているもの	
		ロック装置	巻取り器のロック機能が働かなくなったもの	
		樹脂カバー(ケース)	樹脂カバー(ケース)が破損しているもの	
		リベット	リベット頭部が1/2以上摩滅しているもの	
			リベットのカシメ部にガタ・変形があるもの	
		錆	金属部に錆が発生しているもの	
	ストラップ 平ロープ	摩耗・擦り切れ	芯の露出、また 1mm 以上の摩耗・擦り切れのあるもの	
			使用開始から 2 年が経過しているもの	
		切り傷	芯の露出、また 1mm 以上の切り傷のあるもの	
		焼損・溶融	芯の露出、また 1mm 以上の焼損・溶融しているもの	
		薬品・塗料	汚れ・変色・硬化しているもの	
		縫製部保護カバー	縫製部保護カバーが破損または脱落しているもの	
		縫糸	摩耗・擦り切れ・切断しているもの	
	蛇腹	摩耗・擦り切れ	芯の露出、また 1mm 以上の摩耗・擦り切れのあるもの	
			使用開始から 2 年が経過しているもの	
		切り傷	芯の露出、また 1mm 以上の切り傷のあるもの	
		焼損・溶融	芯の露出、また 1mm 以上の焼損・溶融しているもの	
		薬品・塗料	汚れ・変色・硬化しているもの	
		収縮性	泥・錆・塵などの汚れにより、柔軟性または収縮性が失われたもの	
		縫製部保護カバー	縫製部保護カバーが破損または脱落しているもの	
		縫糸	摩耗・擦り切れ・切断しているもの	
	環類	変形	目視で確認できる変形のあるもの	
		摩滅・傷	深さ 1mm 以上の摩滅・傷・亀裂があるもの	
		錆	全体に錆が発生しているもの	

1 項目でも廃棄基準に達しているものは使用しないでください。

●補助ロープの廃棄基準の一例

胴ベルトの	摩耗・擦り切れ・切り傷・焼損・溶融	摩耗・擦り切れ・切り傷・焼損・溶融
	 3mm以上の摩耗・切り傷があるもの	幅の中  3mm以上の摩耗・切り傷があるもの
バックル	変形	摩滅・傷
	 変形し、締め具合の悪いもの	 1mm以上の摩滅、傷があるもの
フック	変形	摩滅・傷
	 外れ止め装置の開閉操作の悪いもの フックが曲がったもの	 1mm以上の摩滅、傷があるもの
巻取り器	変形	破損・傷
	 ストラップの巻き込み、引出しができないもの	 本体が破損しているもの
ストラップ・平ロープ・蛇腹	切り傷	摩耗
	 1mm以上の摩耗、切り傷があるもの	 芯が見えているもの
	形崩れ	薬品・塗料
	 全体に波打っているもの	 塗料が付着して硬化しているもの。また薬品が付着し、変色しているもの
	損傷・溶融	縫糸
	 損傷・溶融により芯が見えているもの	 縫糸が1ヶ所以上切断しているもの
環類	変形	摩滅・傷
	 目視で変形が確認できるもの	 1mm以上の摩滅、傷があるもの

5. 保管と手入れのしかた

●補助ロープは次のような場所で保管してください。

- ①直射日光に当たらない所。
- ②風通しがよく、湿気のない所。
- ③火気・放熱体などが近くない所。
- ④腐食性物質を置いていない所。
- ⑤塵埃の少ない所。
- ⑥子供が遊びに使ったり、動物が製品に損傷を与えたりしないような場所。

●物品の下積みなどにより傷や変形が起こらないようにしてください。

●ロープ部に泥・埃・油・塗料が付着している場合は、乾いた布などで拭き取ってください。

●フック・接続環などの金具は付着した砂・土・水などを拭き取り、可動部に時々注油してください。

●ロープ部、ストラップに泥・埃・油・塗料が付着している場合は、乾いた布などで拭き取ってください

●フック・接続環・カラビナなどの金具は付着した砂・土・水などを拭き取り、可動部に時々注油してください

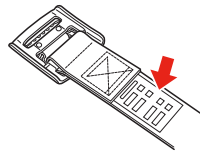
●高温（50℃以上）となる場所に長時間保管しないでください。

6. 交換のめやす（耐用期間）

使用頻度、使用環境や保管方法などによって異なりますが、補助ロープは使用開始年月から2年をめやすとして新品と取り替えてください。

ただし、耐用期間内であっても「点検と廃棄の基準」にしたがって点検を必ず実施し、廃棄基準に該当するものは使用しないで、新品と取り替えてください。また一度でも大きな荷重が加わったものは使用せず、廃棄してください。

●使用を開始した年月を胴ベルトのバックル取付部に縫い付けてあるラベルに必ず記入してください（右図参照）。



製品に関するお問い合わせは

✉ <https://jpn.tajimatool.co.jp/inquiry>

TEL 0120-125577



受付時間：
月曜日～金曜日
9:00～17:00
(12:00～13:00
祝日・当社指定休日を除く)

株式会社TJMデザイン

本社/〒174-8503 東京都板橋区小豆沢3-4-3

<https://jpn.tajimatool.co.jp>